

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第24回 天国と地獄



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

先月も書いたが、東北の色んなところを巡っていると、知り合いにバッタリ会うことがある。大抵は1回限りのことが多い。でも、たまに特定の人と、複数回、お祭りなどでバッタリ会ったり、SNSでやりとりをすると同じ日に同じ場所にいることが判明したりすることもある。ある方とは、何と5カ所（相馬野馬追、さんさ踊り、西馬音内盆踊り、大曲花火大会、会津まつり）で同じ日に同じ場所にいたのだ。何とも奇遇である。

さて、色んなところに行っていると、全然別の場所だが、共通点を見つけることがある。

その一つ、東北には「鬼」に関する場所が多いのではないか。地名でも、宮城県には鬼首温泉があるし、岩手県にも以前は鬼死骸村という村があったらしい。鬼首の地名は、坂上田村麻呂による蝦夷征討の時に蝦夷の首領を討ち取ったところ、その首が飛んできたという伝説が由来と言われている。また、鬼死骸の地名は、先程と同じ蝦夷の亡骸を埋めたという伝説が由来と言われている。似たような伝説は、宮城県、岩手県以外にも、東北各県に存在するらしい。

また、風習という点では、秋田県の伝統行事のなまはげは鬼のように見えるし、岩手県でも鬼剣舞という伝統芸能がある。そして、何と岩手県北上市に「鬼の館」という博物館まであるのだ。

それを知ったら、またまた行きたくなったので、行ってみた（笑）。そうすると、東北と繋がりが深いのは、蝦夷征討が一つの要因だったようだ。また、登場する場面によって、鬼は悪を代表する存在のこともある一方、鬼は悪を退治する神のような存在のこともあるようだ。

岩手県の名前の由来は、神が鬼を捕らえて二度と悪さをしないように約束させて、その証拠に岩に手形を押させたという説もある。節分では鬼に豆を投げるし、桃太郎、一寸法師など、鬼が出てくるおとぎ話も多く存在する。また、「鬼に金棒」

など鬼が出てくることわざも数多くある。

そして、東北を巡っていると、「地獄」と言われる場所も多く見かける。例えば、秋田県の川原毛地獄は、青森県の恐山とともに、日本三大霊場と言われている。ここにも行ってみた。火山活動によって、白い噴気が立ち上がり、草木が殆んど生えていない灰白色の岩肌が広がっているほか、硫黄の結晶も目に入る。また、立ち入り禁止区域も設定されている。そうこうしていると、近くに温泉が滝となって流れ落ちる川原毛大湯滝があることが分かった。以前は、そこまで車で行けたらしいが、大雨で道路が不通となり、標高差200mぐらい降りて行く必要があると書いてあるではないか。最初は行くのは止めておこうと思ったが、「でも、今度何時ここに来るだろう」と思ったので、行ってみた（笑）。火山石がごろごろあり、なかなか大変な道のりだった。でも、行ってみると、滝が本当に温泉なのだ。これには驚いた。

こうした景色は、松川温泉、小安峡、玉川温泉、後生掛温泉、泥湯温泉など、結構あちらこちらにあるのだ。

さて、容易に予想が付くが、地獄と呼ばれる地域では温泉が何とも素晴らしい。誰にとっても、「地獄」ではなく「天国」そのもの。そう言えば、「天国と地獄」というクラシック曲もあったし、映画やドラマもあった。

私は今後も様々な素晴らしい東北の天国のような場所を巡りたいと思う（笑）。

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年（昭和44年）生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任